

第3回函館市町会活性化検討会議 議事録

○開催日時：令和2年8月27日（木） 10：00～12：00

○開催場所：函館市役所本庁舎8階大会議室

○出席者

委員：大矢委員，形部委員，神田委員，菊池委員，酒井委員，
佐藤委員，常野委員，永澤委員，中山委員，浜田委員，
平形委員，森田委員，若林委員

オブザーバー：函館市町会連合会 中村事務局長

函館市教育委員会学校教育部 菊池学校教育指導監

函館市保健福祉部 金指地域福祉課長

函館市保健福祉部 小棚木地域包括ケア推進課長

事務局：市民部 佐藤部長，横川次長，米田市民・男女共同参画課長
小林主査，奥ヶ谷主査，播磨主事

第3回函館市町会活性化検討会議 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 座長の選任について

(2) これまでの検討会議による意見のとりまとめおよび取り組みの方向性について

(3) 今後の会議の進め方について

3 その他

4 閉会

..... 1 開 会

(事務局 小林主査)

ただいまから，第3回 函館市町会活性化検討会議を開催いたします。

私，本日司会を務めさせていただきます，函館市市民部市民・男女共同参画課の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議につきましては，原則公開で行っております。

また，会議録を公開していく関係上，マイクを使用しての発言にご協力をよろしくお願いいたします。

本日の会議の出席数ですが、委員18名中12名、オブザーバー4名の出席をご報告いたします。

なお、1名の委員から、途中出席のご連絡を受けております。

それでは、開会にあたりまして、市民部長の佐藤聖智子から、ご挨拶を申し上げます。

…………… 部 長 挨 拶 ……………

(事務局 佐藤市民部長)

皆様、おはようございます。

この4月から着任した佐藤でございます。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本検討会議の委員にご就任いただきましたことをこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。

本検討会議は、最初は5月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を見合わせておりまして、本日、このように開催できたことにつきましては、私ども行政といたしましても、安堵しているところでございます。

さて、皆様ご承知のとおり、町会、地域コミュニティ、こういったものが多くの方が指摘しておりますとおり、近年は人と人との繋がりが希薄になりまして、地域によっては、ご近所どうしどなたが住んでいられるかわからない、また、挨拶もなかなかしてもらえないなどということがよく耳に入っております。

それに伴ってか、町会の加入率というのも、どんどん低下している状況にもございます。

ですが、災害や、高齢者・子ども達の見守りなど、地域住民とみまましては、町会、地域コミュニティ、こういったものは本当はとても大切なものであると私どもは考えてございます。

たとえば今はマイカー、コンビニ、SNSこういったものがあれば、そういった地域のコミュニティは必要無いのではないかとといった考えをお持ちの方も、もしかしたらおられるかもしれませんが、私ども行政といたしましても、また、地域にお住まいの皆様にとっても、地域のコミュニティというのは昔も今もあるものだ、そして、これからも存続していかなければならないものだというふうに考えてございます。

こういったことから、本検討会議で皆様に様々な観点からご意見いただきまして、行政といたしましても、町会、コミュニティ、そういったものが継続されるよう、どのようにサポートしていけるかどうか、この場でしっかりとご意見いただきながら考えて参りたいと思いますので、皆様におかれましては、それぞれの視点から忌憚のないご意見をいただきまして、本日、活発な意見交換の場となりますことを願ひまして、開催の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

…………… 資 料 確 認 ……………

(事務局 小林主査)

ありがとうございます。

それでは始めに、資料の確認をさせていただきます。

まず、お手元に「第3回 函館市町会活性化検討会議 次第」「座席表」「令和2年度 函館市町会活性化検討会議 委員名簿」「函館市町会活性化検討会議 設置要綱」、資料1として「これまでの検討会議における主な意見のまとめ」が3枚組となっております。

次に資料2として「町会ヒアリングにおける主な意見（中間報告）」最後に、資料3として「今後の進め方」を机上配付しております。

なお、参考までに事前配付している資料ですが、タイトルや資料番号が変更になったことから、あらためてお配りさせていただいた、資料をもとに会議を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

お手元の資料に不備などは、ございませんでしょうか？

…………… 委員等の紹介 ……………

続きまして、本会議の委員の皆様をご紹介します。

昨年度に引き続き、委員に就任していただいた方14名と、今回、4名の委員が、新たに就任しております。

では、名簿の五十音順に、お名前をお呼びいたしますので、ご起立願います。

【事務局 小林主査より委員の紹介】

続きまして、オブザーバーの方々を紹介いたします。

【事務局 小林主査よりオブザーバーの紹介】

続きまして、事務局職員を紹介いたします。

【事務局 小林主査より事務局職員の紹介】

本日の会議につきましては、終了時刻を12時頃と予定しておりますので、議事の進行に、ご協力をよろしくお願いいたします。

…………… 2 議 事 ……………

では、次第2議事に入ります。

本会議につきましては、函館市町会活性化検討会議設置要綱 第5条第2項に基づき、座長が会議の進行を務めることとなっておりますが、新たな任期となり、現在、座長が決定しておりません。

その間、市民部長により進行させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 佐藤市民部長)

座長が決定するまでの間、暫時、議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。失礼ですが、着席のまま進めさせていただきます。

それでは、早速ですが、座長の選任を行います。

この検討会議の設置要綱 第4条第2項の規定により、「座長は、委員の互選により定める」とあります。選出方法を含めて、ご意見はありますか？

(常野委員)

座長につきましては、町会活性化の協議内容が継続していることから、昨年に引き続き菊池委員が適任かと考えますが、皆様ご意見どうでしょうか。

(委員)

異議なし

(事務局 佐藤市民部長)

ただいま、常野委員から、座長に菊池委員の推薦がございまして、皆様から、異議なしということでございましたので、座長は菊池委員に決定いたします。

この後の進行は、菊池座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(事務局 小林主査)

それでは、菊池座長は、座長席へご移動願います。

(菊池座長)

皆様ご指名いただきまして、どうもありがとうございます。

今回、前年度に引き続き座長を務めさせていただきます、菊池でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年に引き続きまして、協議内容を継続ということでございますが、皆様から忌憚ないご意見、提案等をいただければなと思います。

前回の会議から、コロナ渦の影響でブランクがありますが、皆様にまたお会いできて大変嬉しく思っております。

ぜひとも活発な意見を交わされることを期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事の(2)に入りたいと思います。

「これまでの検討会議による意見のとりまとめおよび取り組みの方向性について」事務局から説明をお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、資料1-1「これまでの検討会議における主な意見」により、ご説明いたします。着席のまま説明させていただきます。

こちらの資料は、昨年度おこなわれました第1回、第2回の町会活性化検討会議において、委員の皆様からいただいた、町会が抱える課題や問題をまとめ、分類したものです。

初めに、1番左の項目ですが、大分類として「人材に関すること」・「活動に関すること」・「運営に関すること」の3つに、大きく分類しております。

次に、大分類の「人材に関すること」については、右隣、「町会に関する意識醸成（住民側）」・「若い人の参加」の2つにさらに分類し、「活動に関すること」については「多様な団体との連携」・「町会活動」・「住民の方々への情報発信」の3つに分類、「運営に関すること」については「町会に関する意識醸成（町会側）」・「公平負担」・「財源確保」の3つに分類しております。

このように、まずは、町会に関する課題や問題を、その性質によって分類し、課題解決のための方向性を導き出します。

これらのうち、代表的と思われるいくつかの意見で説明いたしますと、たとえば、意見2番「町会側は加入してもらえるよう努力をしているが、地域住民はメリットデメリットの話ばかりしてくる。全市的に町会に対しての意識が低い。」という課題については、町会の必要性に対する理解が不足しているという地域住民の意識の問題なので、「町会に関する意識醸成（住民側）」に分類しております。

また、意見の9番「子どもたちが町会の行事に参加すると、保護者もついてくるので、このように若い人たちが町会の行事に参加出来るような仕組みづくりが大切。」という課題については、若い人が町会に参加しやすいきっかけづくりが必要ということで、「若い人の参加」に分類しております。

意見の15番「町会だけで全てを行おうとせず他団体に助けを求める姿勢が、今後、より重要になってくる。」という課題については、近隣の町会や学校、企業などとの連携が必要ということで、「多様な団体との連携」に分類しております。

意見の18番「若い世代の人たちは集金に行くという業務が煩わしいと感じていると思うので、集金方法を考える必要がある。」という課題については、集金業務の改善方法や工夫が必要ということで、「町会活動」に分類しております。

意見の24番「スマホで情報を得られるので回覧板はいらないという人もいるが、紙媒体でないと伝えられないこともたくさんある。」という課題については、各世代に届くわかりやすい情報共有の方法が必要ということで「住民の方々への情報発信」にしております。

意見の27番「町会は、勧誘しているのに入ってくれないと考えてしまうが、町会に入らない人は入らないなりの理由があるので、そのような人の意見も受け止めていった方が良い。」という課題については、新たな意見や提案を受け入れる雰囲気づくりが必要ということで「町会に関する意識醸成（町会側）」に分類しています。

意見の30番「街路灯など市内に住む全員が恩恵を受けている物に対しての公平負担が必要。」という課題については、町会活動の費用を市民全体で公平に負担するべきであるとい

う趣旨なので、「公平負担」に分類しております。

このように、課題や問題を分析・分類し、さらに、大分類や中分類のキーワードとして、資料の右端にあります、課題解決のための「取り組みの方向性(案)」として、「自発的な参加の意識づくり」「加入しやすい町会づくり」「透明性・信頼性の確保」「負担感の軽減」といった4つの項目に整理をしております。

次に資料1-2をご覧ください。

こちらは、これまでの検討会議において、皆様からいただいた町会活性化に関する提案的な意見の主なものをまとめた資料です。

それらの意見を、先ほどご説明した4つの案ごとに紐付けしたものです。

代表的と思われるいくつかの意見をご紹介しますと、「自発的な参加の意識づくり」として意見の2番「町会に入らなければならない必要性や、入ることで得られるメリットを明確にしたうえで広報する。」意見の3番「地域内で連携を図ろうとした場合、漠然としたテーマではなく、『防災について話し合いましょう』などキーワードを絞ると、皆が興味を示し、連携がとりやすくなる。」

次の項目「加入しやすい町会づくり」としましては、意見8番「他都市でコンサルタント会社に活性化業務を委託しているが、新しい風を入れることになり非常に良い取り組みだと思う。」意見10番「子どもが参加する活動には、親が一緒に来ることが多いので、そこをきっかけに地域内での顔見知りが増え、町会活性化につなげる。」意見16番「私の町会は区域に2つの学校があり、どちらの学校も複数の町会が校区に入っている。町会長同士で上手く連携しており、コミュニティ・スクールの委員も調整してくれているので連携を取り合って活動している。」

「透明性・信頼性の確保」として意見29番「町会が担っている役割や活動内容、町会費の使い道など、はっきりした広報を行い、加入の勧誘を行うことが重要。」30番「情報発信は、地域住民からの信頼感が醸成されないとだめだと思う。見て楽しい広報紙を作る。」

「負担感の軽減」としまして31番「他の町会の取り組みを実際に見たり聞いたりすることで連携も図られ、良い活動を取り入れる機会になるのではないか。」35番「『役員』ではなく『町会ボランティア』というような形で協力者を集める。」といった意見が出されております。

次に、資料1-3をご覧ください。

こちらの資料は、4つの「取り組みの方向性(案)」ごとに、資料1-1に掲載している課題や問題、また、資料1-2に掲載している提案、双方の意見を要約し、わかりやすくまとめた資料でございます。

要約した意見をあらためてご説明させていただきますと、「自発的な参加の意識づくり」については、課題や問題として、「町会の必要性に対する理解が不足しており、町会や町会活動への参加意識が希薄である」と要約しております。

これに対して、「市民に対する町会の必要性などの理解促進」「主体的な参加を促す仕組みづくり」となっております。

次に、上から2番目の「加入しやすい町会づくり」についてですが、「若い人が町会活動

に参加しやすいきっかけづくりが必要なこと」や「地域内の多様な団体との連携強化」「各世代に届く分かりやすい情報共有の方法」「新たな意見や提案を受け入れる雰囲気づくり」「町会加入の積極的な勧誘が必要である」と要約させていただいております。これに対し、若い人とのきっかけづくりや連携により、町会をもっと身近なものに感じてもらうことが大切であり、町会の活動をもっと知ってもらうために情報発信の方法の工夫や加入しやすい町会を目指すための方向性となっております。

次に、「透明性・信頼性の確保」については、課題や問題として、町会運営や活動において透明性の確保が必要であり、会計などの透明性を高めることで、会員からの信頼性を目指すといった方向性となっております。

最後に、「負担感の軽減」については、課題や問題として、「近隣町会との連携」や「町会業務の改善や工夫」「公平負担」から、連携や業務の改善により町会が無理なく活動できるよう、負担感の軽減を目指すといった方向性となっております。

なお、「取り組みの方向性（案）」については、今後、町会活性化に向けた具体の取り組みを考える上でベースになるものと考えております。

以上でございます。

（菊池座長）

ただいま、事務局から説明のありました意見のとりまとめ、取り組みの方向性についてご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

私の方から、やっぱり印象に残ったキーワードがいくつかあると思います。

たとえば、意識が低い・高いという言葉であったり、不公平感、もしくは不公平そのもの、あとは、若い人たちをどう取り込むか、子どもなどの若い世代に対する意見、さらに、町会だけでなく多様な団体・組織とどう関わっていくか、もしくは組織だけでなく町会に入っている方あるいは入っていない方同士のコミュニケーションというようなキーワードが出てきたと思います。

また、多かった意見としては、情報収集、情報共有、それらを今までのスタイルの回覧板をまわすというものもあれば、SNSなど若い人たちが関わりやすい、そういう提案、アイデアなども出されていたと思います。

あとはやはり市民全体で恩恵を受けているもの、たとえば、街路灯の管理など、そういうものに対して一部の人が負担をする、そういうものにも先ほどお話ししていた不公平感につながるとは思います。そういうご意見が出たと思います。

事務局の方で、意見をまとめて分類し、それを大きく4つに分けてまとめていただいて、方向性の案、今後具体的内容を考えていくことになると思いますが、それらに対するコンセプト、テーマと申しますか、町会が抱えている、問題もしくは解決すべき取り組むべきテーマが大きく4つに分かれており、私もその通りだと思います。

加えて、もちろん、自発的な参加の意識をどうやってつくっていくのか、加入しやすい町会づくり、透明性・信頼性の確保、負担感の軽減、たとえばそれらに対してもう1つ2つあればいいなだとか、これは不要だとか何かしらご意見があるかと思ひますし、もしくはこの

4つで十分だというご意見もあるかもしれませんが、皆様から何か課題や問題に対して、個々のご意見でもそうですし、取り組み（案）についてもご意見いただければと思います。

（酒井委員）

先に渡された資料等を全部読ませていただき、この中で考えていましたが、町会の活動は新聞等に多く掲載されており、その活動内容は、色々な企業や学生さんと組んだ楽しい活動があり、だんだん町会が変わってきているなど、すごく感じることができました。

ただ、私たちも色々な活動を行っている中で、やはり、活動するからには財源が必要だと感じます。財源を得るためには、何が必要かという、やはり町会費が必要です。

町会費を得るためには、町会の加入率が必要となってくる。

加入を増やすために何が必要かという、役員の人達の行動が必要であり、そうすると役員が高齢化になってきており、なり手がいませんとなる。

風が吹くと桶屋が儲かるという形ですが、本当に堂々巡りと感じられて、各町会では色々なことに頑張っているが、そこら辺がすごく悩んでいるところです。

活性化は、すごく時間がかかる活動だというのはわかるのですが、私たちの町会も待ったなしの状態です。

高齢化や役員の担い手の問題を考えた時に、1年先2年先に町会が存続できるのだろうか、活動は頑張っているけれども、その中で果たして町会がやっていけるのかどうかが不安です。今、この4つの項目の中で、大事な方向性というものが書かれていますが、もう1つ何か違う形で、早く進められるような方向性というものも、加えていただけたらと考えます。

（菊池座長）

ありがとうございます。

スピード感というのは、確かに大切かもしれないですが、やはり調整をしていくのは時間もかかるし、なかなかギャップというのもあるかもしれません。

今までの、1回目、2回目のおさらいというところもありますし、加えて、新しく就任していただいた方に、新しいご意見をいただけたらと思います。

（森田委員）

これまで、会議や様々な活動、僕の子供の頃は、お祭りとかイベントとか町会で高齢者がやっていて、今の活動を続けている中でこれだけの課題があって、若い世代が入らないという状況で、この課題を解決するための改善策って人数的にも厳しいと思っています。

若い世代とかが入らなければ、解決しない状況なのかなと感じています。

若い世代が入るにはどうしたらいいのかと考えたのですが、メリットデメリットとかギブアンドテイク、ウィンウィンの話ってすごく大事で、資料1-1の2番にも書かれていますが、メリットデメリットの話ばかり地域住民はしてくるというのがありますが、若い世代にとっては、メリットデメリットが絶対必要だと思っています。

資料2の多数意見には「若い世代は、目に見えるメリットばかりを求め加入しない。」と

書かれていますが、若い世代にとって正直なところ、やはりメリットがないと加入しない。

例えば、いいサービスを受ける、いいものを買うとなると、必ず、メリットがあるから、お金払って自分で買う、利用するっていう状況が生まれる。若い人に町会の勧誘があっても入るとは思えない。

財源の話もありましたが、専門職、教育現場、学生さんとかが参加した時に、持っているスキルや価値に対して、町会側が財源確保して、スキルに対して支払いをしてあげる形にしないとイケない。お金の面を重要視して、バイトとか仕事感覚で町会に入るといった状況が生まれないと変わらないと思いました。

(菊池座長)

貴重なご意見だったと思います。

ある地域では、若い学生さんが入って活動すると、その活動に対してポイントがついて、町会もしくは商店街での買い物で安くなるなどの例もあります。

ただ、難しいのは、それだけを目的にしてしまうこともあり、町会の本来の形では、無くなるっていうのもあります。若い人たちは、メリットデメリットを天秤にかけるとは思いますが、入ることによって自分だけじゃなくて、地域の人達にどういうふうプラスの面があるのかがわかれば良いのではと思います。今、どちらかという個人主義の方もいますが、みんなのために何かしたいという方も多いと思います。

それは、取り組みの方向性の、自発的な参加の意識づくりや加入しやすい町会づくりだと思いますが、これは決して、単独でそれぞれの方向性に結びつくわけではなくて、複合的というか、有機的にリンクしており、メリットも必要だし、意識の問題でもあるということだと思います。

そういった観点から、ご意見やご提案で方向性としてはこうなんじゃないか、というのも踏まえて、他にご意見等ありますか。

(浜田委員)

よく感じることは、やはり若い人たちが言っていることは、貴重であり大事なことです。

町内会の役員達は、それなりに一生懸命やっているつもりですが、一般の人達は、町会が会費を集めるだけの組織で、一方的な関係ではないかと感じています。

私も若い頃、町会に入っていない時は、町内会とは何のためにあるのか、必要ない、メリットもないと感じていました。しかし、今、特に会長をやったことで、結構仕事があって、大事な組織だということが分かっています。

しかし、一般の方は、町会活動をやってみないと分かりません。一般市民から見て、町会の認知度が低く、何をやっているのか分からない組織だという感覚があると思います。

やはり、決定的に欠けていることは、町会が住民に活動をアピール出来ていない。

若い人の話を聞けば分かるが、町会が何やっているかわからない、一方的に会費を集めていると思うのが大方だと思う。

本当は町会って大事だが、若い人達はそういう意識をもたないから参画してこないし、若

い役員も出てこない。

私たちがすごく悩んでいるのは、役員は受けてくれるけれど、会長となると拒否反応が強く、負担感だけ感じるのか、それとも魅力を感じていないのか。

だから、小さい町内会だが、とにかくアピールして、やっていること全て公開し続けようと、いろんなチラシをまわしたりして、できるだけ理解をしてほしいと思いやっているんですが、そういうことが大事じゃないかと思う。

それから、もう1つ付け加えたいのが、函館市内の町会費が年間いくらかというと、平均3,000円ぐらいらしいです。これは、函館市内にある大きい町会は、結構有効に使える位のお金は集まっているのではないかと思います。

しかし、旧4町村では、町内会の単位が小さく、町会活動をやっていく上で、資金が不足します。

しかし、函館市内3,000円の会費で、東部の会費を5,000円とか6,000円にするわけにもいかない。私たち地方の方では、町会がどんどん小さくなると、活動も停滞するので、恵山でいえば8町会ありますが、もう人口を全部合わせても2,500人くらいですから、もう、2つぐらいの町会にまとめていかなければならない。

また、余計ですが、まずは町会活性化の部分で、若い人達および一般の人達に町会のアピールが弱いので、1番大事なのは、活動を理解してもらうために行動あるのみかと思います。

(菊池座長)

大変貴重なご意見ありがとうございます。

私もこの方向性を見ていて、どちらかという受け身な感じがしていました。

参加の意識づくりや加入しやすい町会づくりをすれば、向こうから来るという文面な気がしますが、そうではなくて、そもそも町会活動自体の魅力をどう上げていくか。もちろん魅力的な活動をされている町会も多いと思いますが、それをどうアピールするか。

そうすれば必然的に、どんな活動を行っているかわからない町会には人は入らない、森田委員もお話しされていたかと思いますが、楽しいだとか魅力的な活動があれば参加したいと思う人もいるかと思いますが、その情報の発信は様々、今浜田委員からもありましたが、もう少し文言を足して、魅力あふれる活動づくりか、その活動のアピールの仕方というものを加えて欲しいと思います。

酒井委員、森田委員、浜田委員から共通して言われている財源確保ですが、会員の方が増えれば歳出できる財源はあるのですが、時間がかかることですから、どうにかそれを早めに行うためにも、会費だけに頼らない取り組みが必要かなと思います。

提案の方にもありましたが、賛助会員を呼びかけるとか、そういう財源の確保も考えなければいけない。会員の会費だけに依存しないで、他の賛助会員を増やしていくなど、何か新しい手法を考えていかなければなりません。

皆様からもお話しがあったとおり、この取り組みの方向性に、少し意見を反映してもらえよう事務局の方でもう一度検討していただければと思います。

よろしいでしょうか。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

はい。皆さんからご意見をいただいて検討させていただきたいと思います。

(菊池座長)

中山委員お願いいたします。

(中山委員)

町会を続けていくためには、町会の必要性の部分で、誰もが納得できるような文言を作らなきゃいけないと思います。

また、広報についても回覧板は否定されている意見も出ているので、従前の伝え方ではない、テレビCMなのか、今で言えばYouTubeやTikTokなのか、どんな形かわかりませんが、コストも考えながら、本当に全市民に伝わるような、ある意味市役所でやらなければならないと思います。

あと、町会費についても不公平がないように、税金として全員からもらって、町会へ財源として、その人数分を公平に渡すという様に出来ないのかと思っています。反対があれば、市民投票で、決めれば良いともっています。

また、役所でできないかなと思うものは、PTAと町会の連携というのは本当に大事なことだと思うので、将来的に町会区域と学校区域の違いを解消して欲しい。

若い社員に町会の件を聞いてみたら町会費払ってない人がたくさんいて、町会費払わなかったら街路灯のお金が困ると言ったら、街路灯は払っていますと、別に徴収されているようでしたが、そうなるとうるだけ、町会はいらないっていうことになってしまう。

やはり、私は、2011年の災害時に、町会のみんなでゴミ拾いをしたり、人の家の手伝いをしてあげた時に、町会の必要性をすごく感じたが、その後、9年間そんなに感じる時がなく、事実としてその町会が何のために必要かということ、もう1回整理する必要がある。

町会自体は、続けていけばずっとコストもかかるので、本当に必要なければやめた方がいいし、必要なのであれば、やるべきだということ、みんなで決めて、存続させていかないと、年老いて、みんないなくなって、無くなってしまいうる気がするので、そういう意見集約を、しっかりした方がいいと思います。

あと、せっかくメンバーの中に若い人がいるので、学生の皆さんの意見をぜひ聞きたいです。

(菊池座長)

ありがとうございます。

それでは、ご意見もありましたが、若い、学生さんからの意見もいただければと思います。

(若林委員)

今お話ししていただいた中で、必要なものとそうでないものを取捨選択というところで、すごく私も共感しています。

私の方から、取り組みの方向性の(案)3つめの透明性、信頼性というところで、1つ聞いた話をお話しさせていただきたいなと思っておりました。

今回の会議に出席することにあたって、気持ちを改めて、家族に町会の課題・問題について話を聞いてみたのですが、その中で、1つ驚いたことがあって、私の町会では、集金と、町会の加入の勧誘をする当番が1年ごとにまわってくるそうです。何年前かに、母がその担当になり、いざ集金のない家にまわろうとしたら、1年前、前年度に勧誘したけど町会に入らなかったという家庭がどこにあるのかわからないということがあり、結局その年は、全部の家に勧誘と集金にまわり、全ての家庭が払ってくれたそうで、去年から加入してくれたところがどこかわからないまま当番を引き継いだということで、前年度からの資料の引継がないということでした。

加入していないところがわかれば、未加入者に対して町会の具体的な活動を説明できたりとか、そういうところで加入率の増加に繋がるのではないかと考えているので、そういう細かいところが、若い世代の加入だったり、町会の業務に関わる足を遠ざけているのではないかと考えました。

たとえば、共通のフォーマットをつくったり、データを蓄積していったりだとか、今、こういうふうに見て、すごく大きい課題が山積みになっていると聞いて、何から気をつけたらいいかなとも思いますが、こういう小さい問題からひとつずつ解決していくことも必要ではないかなと思いました。

(菊池座長)

ありがとうございました。

かつてのやり方から現代的なやり方にどう移行していくのかということも1つの課題だと思います。

佐藤さん何かご意見あればお願いします。

(佐藤委員)

未来大の佐藤です、よろしくお願いします。

私は、町会の目的というところから知らなかったのですが、メリットデメリットの話としては、メリットは必要だが、それはきっかけでいいと思っています。

町会に関わるきっかけとしてメリットがあるべきもので、メリットを目的に入ったが、町会のこの人と仲良くなった、この人に恩があるから、義理があるからというところで、続けて、貢献していくことが大切だと思います。

今まで、大門祭や陣川の町会とか、函館プラスという地域の活動をしてきましたが、最初はみんな就活のための実績づくりとして入るのですが、その後、色々な人と関わり、人として仲良くなって、恩返しのためにずっと続けていくということになるので、メリットという

のは最初にぶらさげるエサのようなものでいいかなと思います。

それと、町会の加入に関してですが、初めて町会の勧誘をする時は、町会の立場が邪魔になり警戒されると思います。

私も、お祭りのためのお金の徴収の時に、大門祭の委員ですと言うと相手は身構えてしまい、お金を取りに来たんだなという目で見られることが多かったです。

そういう時は、自分の立場を1度捨てて、人として仲良くなり、その後今こういうことをやっていますと話した方が、まず人として仲良くなるのが最初だと思います。

なので、町会の場合、どうやって加入してもらおうかについて、町会が先行するかもしれませんが、その前に人として1回繋がることで、加入に繋がると思いますし、お互いの関わりというのが、最初にできあがるべきと思っています。

(菊池座長)

ありがとうございます。

やはり、佐藤委員の意見にもありましたが、きっかけがどこにあるのかということ。

若い学生さんであれば就活だとかのメリットデメリットということも出てきますが、若いファミリー層であれば子どもの関係などで、きっかけをつくってゆく、そこを通じて必要性を感じてもらおうということが大事なのかなと思います。

中山委員や若林委員のお話もありましたが、必要性、緊急性を感じるような、受け身ではなく町会側から色々な意見を取り込んでやっていく必要があるのかなと思います。

何か他にご意見はありますか。

(浜田委員)

意見ではなく、質問ですが、町会活動は意味があるのかなのか考えて存続をするかどうかという話も出ましたが、そうではなくて、逆に、簡単な1つのテーマで質問してみたいです。

マイクロプラスチックという問題で、PM2.5 ぐらいまで細かくなってしまい、それを魚介類が食べて、最後は食物連鎖で人体に及びます。日本で処理できないプラスチックごみが、150万トンぐらい、後進国の東南アジアの方に輸出していると、そういう裏技使っているみたいですが、現在日本の海岸を見ても、すごくプラスチックが落ちている。

この問題について、世界の機関、日本では環境省も動いているのだけど、若い人達は、この問題をお国任せにした方が良いのか、それとも町会組織のみんなで活動してやったほうがいいのか、どう思っているのかを聞いてみたいです。

国だって真剣に取り組まなければならないし、世界的にも問題になっている。町会活動というのはボランティア的なこともやっているんで、各町内会でも取り組まなければならない問題だと思っていますが、若い人達がどう感じているのか聞いてみたいです。

こういうことこそ、地域の環境整備、環境を守るというのも結構町会のウエイトを占めていると思っていますが、具体的な話で若い人に聞いてみたいと思います。

(菊池座長)

今、マイクロプラスチックの話がありましたが、地域の環境整備について、町会がしていることが結構あると思います、街路灯とかもそうですが、市民全体が恩恵というものを受けている町会の活動に対して、町会が活動すべきなのか、それともそういうものは国や自治体が必要なのか聞いてみてほしいということでしたが、若林委員どうでしょうか。

(若林委員)

私は今のプラスチックの問題に関して、大学のゼミで環境経済学を学んでいるということもあり、すごく深刻な問題だと思っています。

町会でやるべきか否かということに関しては、国の方で様々な対策を取っていると思うのですが、いくらニュースでレジ袋を有料化しても、なかなか問題が大きすぎて自分事として捉えにくいところが問題だなど思っていて、そういう部分で町会として何か取り組みがあると、身近なところでこういうふうを考えている人がいるんだ、こういうふうに動いている団体があるんだということを知ること、自分の日常生活のなかでも少しずつ気をつけてみたり、活動を積極的にしてみたりに繋がっていくのではないかと思います。

(神田委員)

今、教育大の若林さん、未来大の佐藤さんのお話を伺って大変参考になりました。

私はPTAとしてこちらに伺っておりますが、保護者世代としては、近いなど、たぶんお二方の言っていることがすごくわかりました。

私は、町会に属する皆様との付き合いも多く、やはり、町会の皆様のお考えというのは、町会を盛り上げていかなきゃいけない、自分たちのまちだから大切にしていかなければならない、というお考えがかなり強いなど実感しております。

その中で私たちが町会の恩恵を預かるのはやはり防災の時に、町会の皆様の力を借りるといっては、住んでいる者としてはありなのかなと。

いつがあるかわからないので、地域の皆様との繋がりというのはとても大切だと実感しておりますし、先ほど学生さんが言われていたメリットデメリットというのは、やはり大切などころがあると思います。

保護者の皆様が町会に加入されていないというのは、やはりメリットがわからないからという方が多いです。なので、広報するというのは本当に大切だなというのは、今の皆様のお話を聞いていて実感いたしました。

未来大の佐藤さんがおっしゃっていた、人としての繋がりが大事だということ、私も実はコミュニティ・スクールの地域コーディネーターをしております、その中で、地域と学校を繋いで子どもたちを育てるというサポートをしております。

その中で、子どもたちは純粋でメリットデメリットを何も考えておりませんが、子どもたちが授業を通して、先生や保護者以外、全く他人の地域の人と関わることによって、人の大切さ、地域の大事さを、学びの中で実感していると、最近特に思っています。

それが未来大の佐藤さんが先ほどおっしゃっていた人との繋がりではないかなと思いま

す。やはり私たちの世代はそういう部分が欠けていることもありますので、メリットデメリットはとても大切ですが、小さい頃から地域の大切さ、人の大切さを、それを越えた人の繋がりというのも、私たち保護者として子どもたちに伝えていかなければならないという事を実感いたしました。

具体的な案というのは今出ませんが、地域や町会の大切さを広報していく、そしてその広報の中に、防災のことを盛り込みながら、少しずつ町会が果たしている役割というものを函館市の市民の皆様伝えていくというのが、とても大切だなと実感いたしました。

(菊池座長)

ありがとうございます。

いわゆる地縁を深める、そのきっかけというのが1つの活動でもあると思います。

皆さんから色々なご意見をいただきましたが、これらをまとめて方向性をこちらから提案するというのは時間的な問題もあるので、また追加されたご意見やご提案に関して、事務局の方でさらにまとめていただきたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

はい、承知しました。

(菊池座長)

また、次回がもう少し具体的な話になると思いますので、その時にでも、もう少しお話ししていただければなと思います。

それでは議事を進めさせていただきたいと思います。

次に、資料2の議事に移りたいと思いますが、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、資料2「町会ヒアリングにおける主な意見 中間報告」について、ご説明いたします。

こちらの資料は、特色ある活動をおこなっている町会をリストアップし、町会長や役員の方々に聞き取りを行い、課題や問題をまとめたものであり、現時点で、全ての町会のヒアリングが、まだ終了しておりませんので、中間報告という形で配布しております。

こちらの資料にも、先ほど検討会議の意見のまとめで確認をさせていただいた「取り組みの方向性(案)」により区分しております。

この町会ヒアリングで出された課題や問題の内容につきましては、先ほど説明した資料と重複する部分がありますので、検討会議で出ていない主旨の意見だけ抜き出してご紹介いたしますので、参考にしていただきたいと思います。

多数意見と少数意見となっていますが、多数意見というのは、複数の町会から同じ主旨の意見が出たということで、少数意見というのは、出た数が少ない、少数の意見ということでございます。

まず、取り組みの方向性で「自発的な参加の意識づくり」のところで、多数意見の3つめ「生活環境整備が充実し、町会加入の必要性やメリットが弱まっている。」これは、もともと町会というのは、生活環境、道路が悪いとか排水が悪いとか、そういったものを充実させてほしいということで要望をしていただく機会がありましたので、そういうものが、今の時代、整備が進んで、必要性が弱まってきているということでございます。

それから、少数意見として出てきているのが「子どもが大きくなると脱会する場合がある。」ということでございます。

また、「加入しやすい町会づくり」の中では、多数意見の2つ目「新規加入者が少ないほか、班長就任の負担感などから脱会する高齢者等も多い。」ということでございます。

それから少数意見の1つ目「集金や回覧板がコミュニケーションに直結するとは限らない。」というご意見もございました。

「透明性・信頼性の確保」については特になく、「負担感の軽減」というところで、多数意見の上から6番目、7番目「退職年齢の延長や自営業者の減により役員のなり手が不足している。」「役員に定年がないため、一度引き受けると高齢になっても辞められない。」

それから少数意見ですが、「活動への参加者が増えず会員数だけ増えると、現在の役員の負担が増す。」「学校やPTAからの依頼が多く、ウィンウィンの関係になっていない。」「役員になると、行事への参加等が当たり前になりプレッシャーが大きい。」

こういった意見が各町会から出されています。

参考にしていただきたいと思います、よろしくお願いします。

以上でございます。

(菊池座長)

ありがとうございます。

今まで出た意見、町会ヒアリングにおける主な意見を集約したものを中間報告していただいたのですが、たとえば、子どもが大きくなると脱退すると先ほど中山委員もお話しされていましたが、子どもの手が離れてしまうと町会との関わりが難しくなったり、それに伴って脱退することもある。

それに対してどのようなフォローをされているのか、ケースがあればご紹介していただきたいと思います。私もそうですが共働き世代が日中いない、そうすると色々な業務に関して厳しいものがあるというご意見もあったと思います。

たとえば、高齢化の問題であれば、この町会ヒアリングで出ている意見の半数以上の感じがしますが、高齢化というものに対する危機感や、それをどうすれば解決できるのか、若い世代が入れば解決できることもあるかもしれないですが、役員のなり手不足、会員が増加しても活動に参加されない、そうすると役員さんは定年にならないからそのまま延長ということもあり得るという話もありましたが、同じような問題を抱えている町会で、なにかプラスでお話ししていただければなと思います、どうでしょうか。

(永澤委員)

先ほどの高齢化の問題ですが、うちの町会の高齢化率が37%近くになっていまして、どっちを見ても高齢者、その中の1人でもあるのですが、高齢化の波には勝てないなと思いつつ活動しております。

そこで、うちの町会では、とにかく町民だけで運営するのは大変だろうということで、町会の会則を一部変更し、町会にある企業さん、その方達も町会の役員になることができるよう文言を変え、一部の会社の方をお願いをして役員を引き受けてもらっております。

そのようなことから、自分の町内会だけで何が何でもやらなければならないという次代ではなく、今は人口の減少と高齢化率も高くなっているのです、少しは町会役員をお願いする人数も、町民から会社に少しずつ移行をしてやっております。

やはり高齢化率は高くなっている反面、役員でお亡くなりになっている方も増えているのですから、会社をお願いして、色々な部分で手助けをしてもらおうという案でおります。

今年の春先に、町内にある一企業から、うちの方もお手伝いすることがあれば手伝いますと積極的に言ってくださって、10月頃に会社の施設が整備されるので、その時に何かを一緒にやりましょうという案も出てきていますので、やはりあの、会則を変えたことも1つのメリットかなと思っております。

(菊池座長)

ありがとうございます。他に何かありますか。

(酒井委員)

ここにある負担感の軽減の多数意見の真ん中らへんに、「退職年齢の延長や自営業者の減により役員のなり手が不足している」ということで書いているのですが、町会の役員というのは退職者でないとやれないとか、仕事が自営業の方は時間があるから、そういう人達にならないといけないものだと、勝手に思い込んでいる部分があるのかなと思いました。

現実、年齢が上じゃないと役員になれないと私たち自身も思っていたり、若い人は仕事をしているから声をかけてはいけないという思い込みがあるので、頭を切り替えて、私たち自身をお願いすることが必要だと思いました。

また、先ほど永澤さんが言われたように、自分たちの町会だけじゃできない部分があるというのも、この頃すごく考えています。

私たちの町会では、規約は変えてはいませんが、永澤さんがおっしゃったように、いろんな企業をお願いをしている部分があり、自分たちができないところを認めて、できないところは他の人達をお願いするというか、甘えるということも町会として大事じゃないのかなと思っております。

どうしても、町会は自分の枠だけで今まで頑張っていた部分があるので、何かお願いするというのが、すごく苦痛な部分が町会にはあるが、自分ができない部分はお願いするというのは大事です。広報に関しても、自分たちが高齢化になっているので、SNSを使おうと思ってもできず、各企業をお願いしたり、それに長けている若い人達で、学生さんとかに教え

てもらっています。

また、学校のPTAにお願いするとか、自分たちのできない部分は枠を超えて、気軽にお願いできるようにしていかなければ、町会の存続というのは難しいのではないかと感じていますので、1歩ずつ進みながら、町会としても活動していきたいと思っています。

(菊池座長)

ありがとうございます。

確かに、資料を読むと、高齢者に役員をお願いするという思い込みがあると思います。

共働きだから難しいとか、時間がある人にしか回さないとか、皆さん同じかもしれませんが。高齢者だから役員をしなければならないというのもおかしいですし、共働きだから、なかなか活動に参加できないというような思い込みというのは、ご意見に垣間見えるような気がします。

永澤委員や酒井委員がお話しされていましたが、町会だからといって、そこに住んでいる住民だけが参加するわけではなく、企業さんが参加することで会社の認知度が高まったり、メリットという意味でもプラスのこともあるでしょうし、地域に根付く、地域の一企業として認知が深まるなど、お互いプラスになるような仕組みというのが全体的に広まれば良いのかなと思います。

あとは、負担感の軽減が、1番意見が大きいというのが問題な気がします。

自発的な意識とか加入しやすい活動そのものよりも、なり手とか業務に対しての負担、もしくは負担感をどう町会の会員さんだけでなく、他の所をお願いするか課題です。

負担を減らすというより、負担という言葉が、そういうことをしなければいけないという重みがあるので、回覧板をSNSで代替できるのではないかと、ただもちろん高齢者でスマホやパソコンを持ってない方もいらっしゃるかと思います。安否確認なんかも、今まであった地縁を深める場である町会の役割というのが大きいと思います。

従前の町会のあり方に対して、批判もあると思いますし、変えていかなければならないところもあるかと思いますが、大切にしくなくちゃいけないことは残していくべきだと思います。

先ほどお話にありましたが、取捨選択として、必要なものとそうでないものというのは各町会ごとに違うと思いますが、共通していえることが出てくると思います。

今回の町会ヒアリングは、全ての町会に対してのヒアリングではないとのことですが、活動する上で負担感、負担、という言葉を変えていければなと思います。

もちろん、実際に役員をなさった方だと、思われることも多いと思いますが、他に何かご意見等あれば。

(形部委員)

うちの町会では高齢者がすごく多くなってきて、施設に入るので町会を脱退しますという方がすごく多くなっています。

高齢化がすごく進んでいるなど、活性化がなかなか軌道に乗らないことで、風通しも良く

ないし、動きがなく、町会が滞っている状態にあります。

今私が役員をやっている負担がすごくあったのですが、コロナの影響で負担感が減りました。というのは、日に何度も電話がきたり、対応することが多くて大変でしたが、コロナの影響でそれが一切なくなったので、すごくストレスフリーになりました。

町会の仕事がこのぐらいでできるのであれば、若い人、仕事を持っている人、いろんな人が参加しやすい状態になるのではないかと思います。

私たちの町会には商店街がないので、企業と言えば福祉施設になりますが、やはり手を取り合って、一緒にやっていく事業はたくさんあるので、その企業と町会がウィンウィンの関係を深めている状態であることを報告します。

また、CSの取り組みの1つとして、他町会と連携して、パトロールの場所とか時間の割り振りがうまく決めることが出来ました。

そして、学校で子供たちに町会を紹介してくれて、この人達がパトロールをしてあなたたちを守っているんですよ、よく覚えておきなさい、と紹介されて、まちで会った時に手を振ると、お母さんがあれ誰？と聞いて、子どもたちから町会のおじちゃんだよと紹介してもらえる、というのもつながりの1つなのかなと思います。以上です。

(菊池座長)

ありがとうございます。

コロナで良い面もあると。やはり取捨選択されるということですよ、淘汰されていき、業務の方も必要なものがわかっていくというのがあるのかもしれないです。

(神田委員)

先ほどの負担感の話ですが、私も町会さんで何度か班長をやっておりますが、その時に、町会費の徴収がすごく大変だと実感しています。

先ほど町会費を取りにいかれたという話をされていましたが、1人あたり担当区が前は23軒だったのですが、やはり大変だからということで半分になりました。

一辺に行こうと思ってもその日のうちには徴収できず、何日も通ってだとか、やはり働かされている方もいるので、行く時間を見計らうという、本当にスパイのように電気ついたなと思ったらさっさと行くような。

徴収は本当に大変で、うちの場合はみなさん戸建のお宅なので、全ての方が皆さん町会費を払って下さっているのですが、中には、1ヶ月ずつとか、半年ごととか、事情があるので1年分くださいとは言えませんので、そうなった時は、班長になった方が毎月毎月集金に行かなければならない。

町会費の徴収は本当に大変だと、班長をされている方は、それが嫌で私は働いているから班長はできませんとお断りされる世代のお母さんはたくさんいます。

先ほど税金で徴収できないですかねと中山委員がおっしゃっていましたが、徴収方法が大切かなとすごく思っていて、私も新聞で永澤委員が学校で防災の活動をされている新聞を読みましたが、皆さんたくさんの活動をされていて、そこに全力を尽くしたいが、お金を徴収

しなければならないというところにさらに力が必要となっている。

それであれば、徴収する方法を、スマホ決済だとか、コンビニでチャリンとかできたらいいなと思っているのですが、その他に、高齢者の方も簡単にできる徴収方法というのが、市だったり自治体だったり、何かの形で実現できたら、かなり班長になるということに抵抗はなくなるのではないかなと感じています。

(菊池座長)

ありがとうございます。

やはりこの意見の中にも、班長の集金という言葉が結構出ていますし、それが1番の負担というようなニュアンスもありますから、徴収方法をもう少し考えて、従前のやり方を望まれる方もいるので、支払い方法を選択できればいいですね。若い人達や共働き世代や高齢者など何パターンか支払方法を町会で用意するというのも、何か考えて提案できればなと思っています。

(常野委員)

皆さんのお話を伺った感想も含めてですが、まずは資料がとても素晴らしく見やすく、事務局の方の用意が大変すばらしいなと思いながら拝見させていただきました。

今、町会の負担だとか高齢化というお話もありましたが、私のセンターの取り組みとしては、これまでである町会では、お祭りの時に80代90代の方がやぐらを作っており、見ていて危険というか、危ういという状況があり、そこに、最初は包括支援センターがお手伝いに入って、その後、地域の福祉施設の若い職員さんに協力を求めて、一緒にまつりを作り上げていくという取り組みが定着しました。

先ほど佐藤委員もおっしゃっていましたが、そういったきっかけがあれば、メリットが目的ではなくて、後々の人の繋がりになるのかなと思って皆さんのお話を聞いておりました。

もう1点、先日、函館市の地域支え合い推進会議というのを傍聴させてもらい、こちらの会議が、市の生活支援の体制について検討するという会議で、こちらの町会の検討会議の方がミクロな話し合いの場かなと思います。その中のテーマの1つに、男性の活動参加の促しというのがあり、森田委員も先ほどおっしゃっていましたが、若い方にも直結すると思ったのでお話しさせていただきたいと思います。

実は、男性とか若い方は、ただ集まるとなると難しく、皆さんから色々お話出していた役割とか目的とか、活躍できることがあるということがとても大事で、それがお金以外のメリットになるのかなと思っていました。

集まって加入してもらって、それからどうしようかではなくて、何のために活動するのかとか、目的とか役割とか、男性、若い方が活躍できるということを明確にして発信していくという仕組みが、浜田委員、中山委員もおっしゃっていた発信の仕方というのがとても大事かなと思っていましたので、それがゆくゆくは、今の高齢化や役員の負担の軽減に繋がってくるのかなと思っていました。

仕組み作りとか仕組みの見直しというお話が出ていましたが、それには仕掛ける人、ア

クッションを起こす人が必要だと思います。

9月には具体的な話になるでしょうし、11月には予定ではセミナーも開催されるようなので、皆さんのこういった意見を、9月、11月とかで発展したものにできたらいいなと思っていました。

(菊池座長)

非常に進行しやすいご意見いただいて、ありがとうございます。

若い人はどうしても地域活動やPTA活動などもそうですが、家族の場合はどうしてもお母さんが負担をしてしまう、地域活動も中心になってしまい、児童の活動、保護者の活動もお母さん、という女性が負担を強いられやすい状況で、たとえば、男性の力が欲しかったら、定年されたお父さんに声がかかってしまうという思い込みや社会の状況になってしまっているというのは否めないと思います。

たとえばそれが、活躍の場を確立するという自分たちが自分事として関わりに行きたいなと思えるような町会にしていくには、どうしたらいいかなと考えるのがこの会議なので、今後、具体的な提案や取り組みに対して議論していければと思います。

他にご意見はありますか。平形委員よろしくお願ひいたします。

(平形委員)

常野委員のご意見を伺って思ったのですが、1つの地域にいろんな問題を抱えており、やはり負担感の軽減というところで、それぞれの地域で高齢化が進んでいって大きな問題というところで、若い人に役割を担ってほしいというところも多いかと思うのですが、もっと町会を超えて横断的な、たとえば学生さんというのはやはり、佐藤委員の言うとおりに、人と人との繋がりだったり、同じ催し物、目的で繋がったりということがあると思います。

また、組織なのかわからないが、前のページにある町会ボランティアというのを作って、ワークショップあって、どこの町会にでもお手伝いに行ける人材を確保する仕組みというのを考えるのも必要になってくると思っています。

マンパワー不足に対応する1つのきっかけになると思います。

ただ、もともと、活動をやっている方との連携の問題もあると思うので、1つ1つ、クリアして、自分たちが住んでいる町会かどうかというのを取り除いて、まちづくりのためにお手伝いしたいという人材が活躍できる組織の仕組みを1個考えてみてはどうかなと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。

この町会ボランティアはたしか、検討会議でも負担感の軽減のなかにご意見あったと思いますが、会員になると負担になるということもありますが、横断的にいろんなところで活動してみたい、会員の一手手前という、そういうのも私はひとつあると思います。

どうもありがとうございます。

他にご意見ございますでしょうか。
よろしいでしょうか。

また、この町会ヒアリングに関しても、今回は中間報告ですので、追加で、ヒアリングの対象となっている全ての町会のご意見が集まりましたら、また、課題や問題について出てくるものもあると思いますので、その時はまたあらためてご意見をお願いいたします。

それでは、次に議事の（３）に入りたいと思います。「今後の会議の進め方」について、事務局からお願いいたします。

（事務局 米田市民・男女共同参画課長）

それでは、資料３「今後の進め方」について、ご説明いたします。

今年度の検討会議は、本日を含めて全４回を予定しております。

次回、第４回検討会議については、９月下旬を予定しており、本日、ご意見などをいただいた取り組みの方向性について、さらに掘り下げ、具体の取り組み案について協議していただきたいと考えております。

１０月下旬に予定している第５回検討会議では、そこまでの間の検討内容の中間まとめを行いたいと考えております。

また、検討会議とは別になりますが、１１月下旬には、町会関係者やその他関係団体等にお声がけし、セミナーと意見交換会の開催を予定しております。

外部講師を招いた活性化セミナー、検討会議の時点報告および意見交換会を実施したいと考えております。

その後、年明け１月中旬頃に、第６回検討会議を開催し、最終的な全体のまとめを行い、町会活性化に向けた施策の参考にさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

（菊池座長）

ありがとうございます。

ただいま事務局からご説明がございました、会議の進め方についてご質問等はありませんか。よろしいでしょうか。

私の方からなのですが、資料３「今後の進め方」の最終の第６回に全体的なまとめとありますけれども、この検討会議の意見を報告書という形で最終的にはまとめるものというように認識しているのですが、取り組みの方向性というものも、ご意見を色々いただいたので、また改めて検討していただくということもありますが、大枠は方向性が示されたのかなと思います。

今後、どのような形でまとめるご予定か、事務局の方でお答えいただきたいのですが、よろしくをお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

今後、町会活性化策などをまとめた素案という形で作成したいと考えております。

(菊池座長)

ありがとうございます。

これは提案ですが、この検討会議や、先ほど中間報告をいただいた町会ヒアリングにおける課題や意見、提案的なものから作成される素案に対して、私たち検討会議も意見を申し上げることができればよいのではないかと私は考えるのですが、皆さんいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(委員)

いいです。

(菊池座長)

ありがとうございます。

事務局としてはいかがでしょうか。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

事務局としましては、検討会議の皆さんの意向を取り入れたいと考えております。

それでは、第5回の検討会議の際には、素案のたたき台を示したいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(菊池座長)

ありがとうございます。

それでは、検討会議も素案に関わっていくことといたしますので、皆様よろしくをお願いします。

それでは時間、この辺で議事を終了したいと思います。会議終了後に改めて何かお気づきになられた点がございましたら、後日事務局の方に伝えていただければと思います。よろしくをお願いします。

..... 3 その他

それでは次第3その他についてですが、委員の皆様から何かございますでしょうか。なければ、事務局からよろしくお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

事務局から、連絡事項をお伝えいたします。

次回会議の開催予定についてですが、9月25日(金)から土日ははさんで28日(月)

29日（火）30日（水）の4日間の候補日の中から、委員の皆様の出席が一番多く見込まれる日とさせていただきます。

ただ今、係が日程確認表をお配りしておりますので、事務局あてにメールをしていただくか、ファックスでの回答をよろしくお願いいたします。

メールアドレスのある方は、後ほど確認表のデータを送信させていただきます。

回答の締め切りですが、日程確認表に記載してあるとおり9月4日（金）までとさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは、以上です。

（菊池座長）

ただいまの連絡事項に対し、何かご質問はありますでしょうか。

何もないようでしたら、以上で終了とし、事務局に進行をお返しします。

..... 4 閉 会

（事務局 小林主査）

それでは、これをもちまして、第3回函館市町会活性化検討会議を終了とさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。